

21

遺跡名	立地	時期					集落構成		備考
		前半(古)	前半(新)	後半(古)	後半(新)	古墳初	居住域	墓域	
1	八兵衛淵						○		
2	八兵衛屋敷						○		
3	尾上田橋西						○	○	
4	尾上田橋						○		(未報告)
5	尾上田橋						○		
6	築地鼻北						○		
7	築地鼻						○		
8	荒物						○	○	(未報告)
9	北神馬土手						○	○	
10	横出						○	○	
11	二本松						○	○	
12	中見代第I						○	○	
13	二ツ洞								土坑のみ
14	西洞						○	○	(未報告)
15	清水柳北						○	○	
16	土手頭						○		(未報告)
17	土手頭南						○	○	
18	的場						○		
19	雄鹿塚						○		土坑他
20	雄鹿塚						○		
21	目黒身						○	○	
22	俣名田						○		
23	尾橋						○		
24	沢田						○		
25	高田第六天						○		細分不可
26	豆生田						○		
27	三芳町						○		(未報告)
28	御幸町						○		
29	瀬戸川						○	○	
30	矢崎						○		
31	外原								溝、土坑
32	岩崎屋敷跡						○		細分不可
33	道庭大亀								細分不可

愛鷹山南麓周辺の集落遺跡消長表

◎後期前半に低地周辺（浮島沼周辺など）に位置した集落は後期後半に高位置に形成されるようになる。、足高尾上遺跡群は周辺に同様の緩斜面が広がるにも関わらず、標高80mから180m付近、東西2kmのごく限られた範囲に集落が密集する。

22

愛鷹山山麓の大集落 (後期後半:足高尾上遺跡群)

図21 樋出遺跡全体図

図22 樋出遺跡形状遺構

23

③ 菊川式土器の関東地方への移動と環濠集落

弥生後期の地域色と土器の移動 (人の移動)

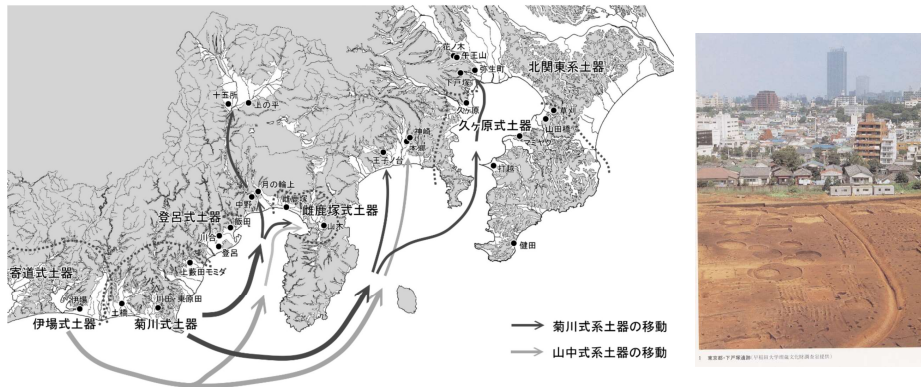
東京湾岸・房総半島に久ヶ原式が、駿河湾東岸に雌鹿塚式、静岡清水平野に有東式に後続する登呂式土器が、天竜川以东のおそらく志太平野も含む東遠江地域に白岩式に後続する菊川式土器がそれぞれ特徴の異なる後期前半の土器型式として形成された登呂式土器の櫛描文や赤彩の流行は中部高地の影響とみてよいだろう。

⇒この時期に地域色がはっきりしてくることは、自集団と他集団を明確に意識し始めたようにも見える。

24

地域色のある弥生文化が展開する。農耕戦略の違いからか、新天地をもとめて**移動する集団**もあった(菊川式土器、伊場式土器(山中系土器)の移動)。(篠原和大2012「登呂の時代の駿河と赤彩土器」『赤い土器の世界』)

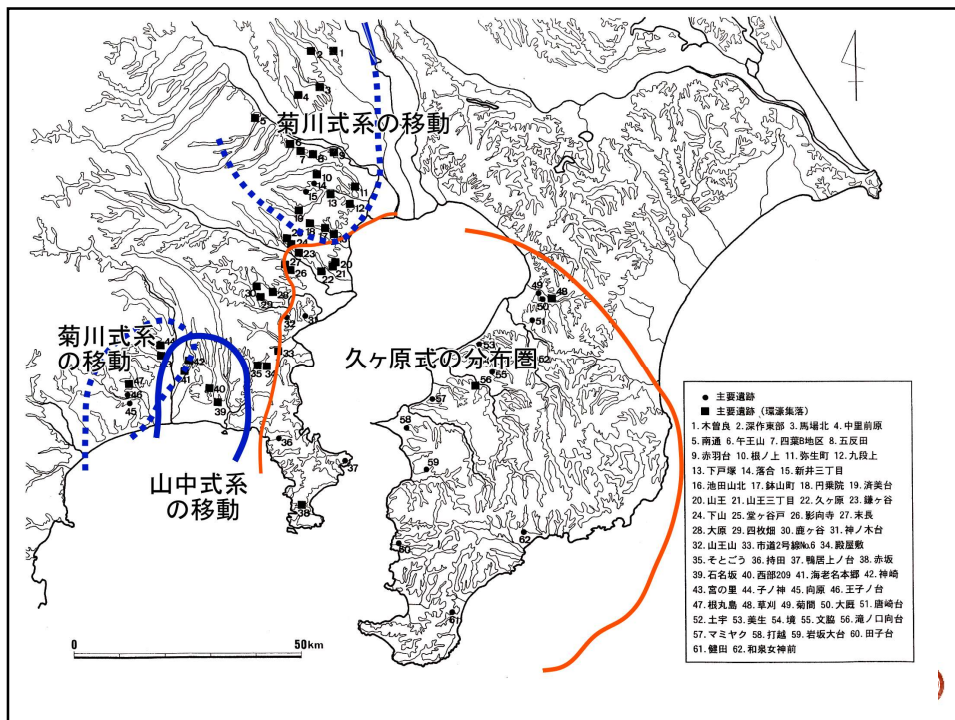
◎南関東地方への菊川式土器の移動



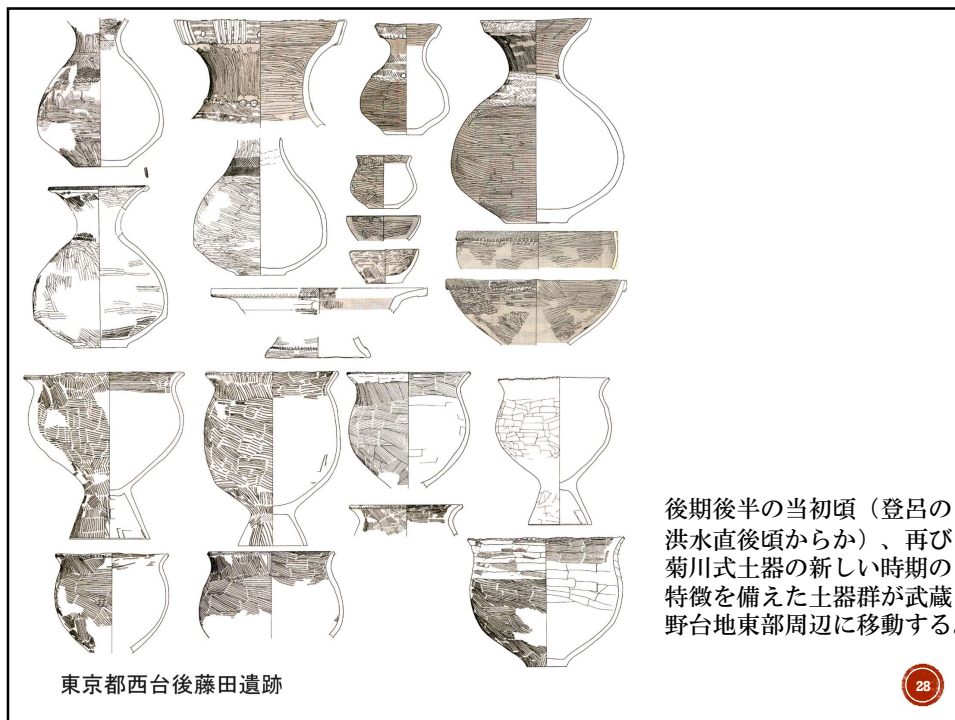
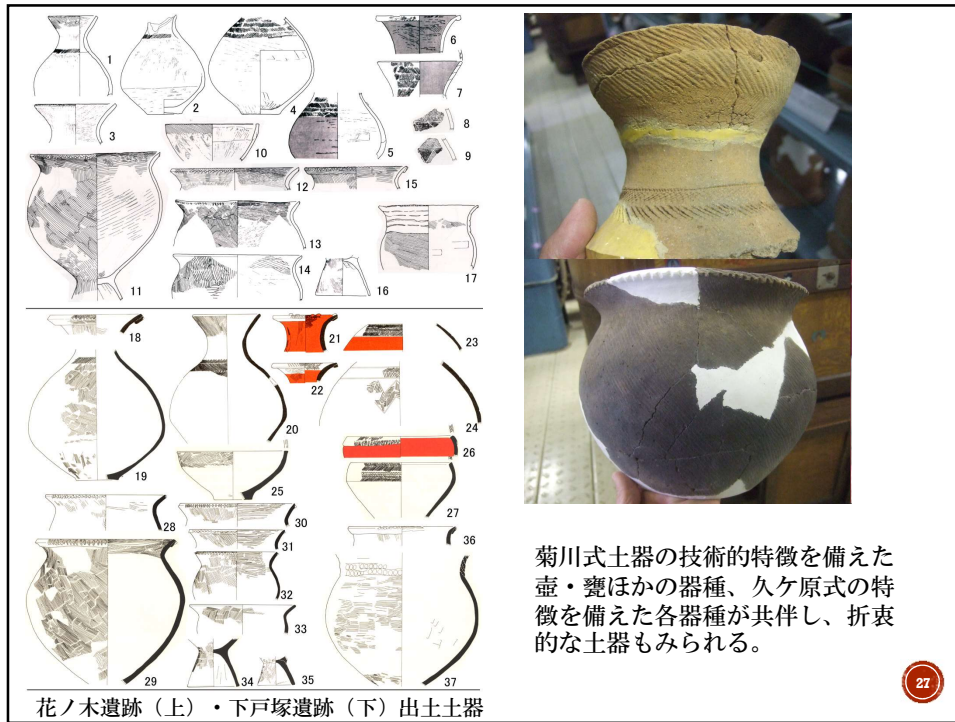
中部太平洋岸地域の弥生後期の土器の移動(『藤枝市史通史編上』(藤枝市2010)より転載)

埼玉県和光市午王堂山遺跡・花ノ木遺跡、東京都下戸塚遺跡など東京湾北西岸域で、菊川式土器がまとまって出土することが知られる。これらの集落の多くは環濠集落で、周辺地域の在来的な土器(久ヶ原式)を含んで、変容が進んだ菊川式土器が共存する。人が集団で移動して定住したことを示す。

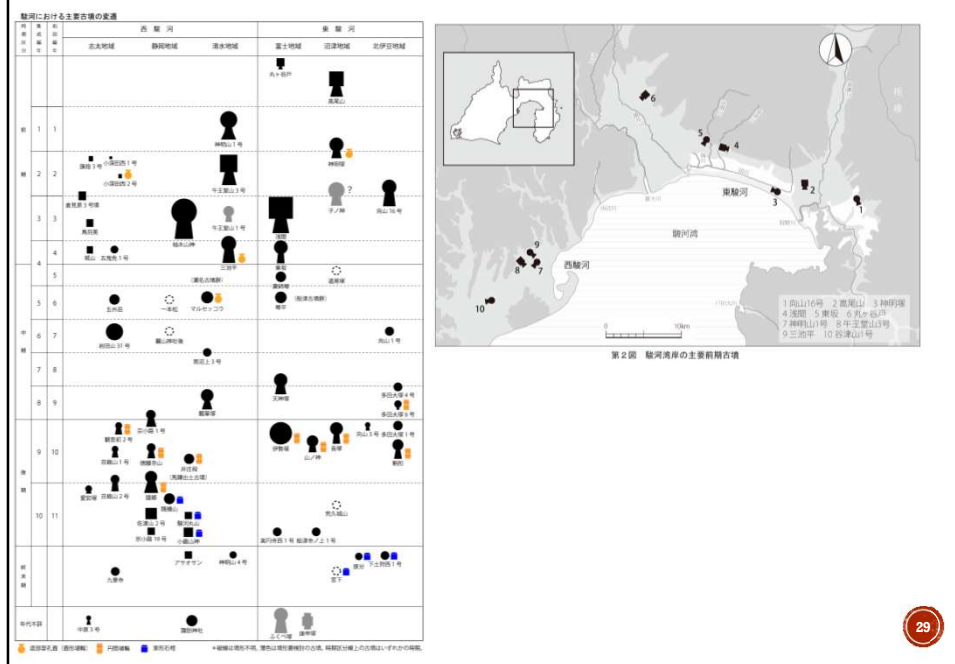
25



- 主要遺跡
- 主要遺跡(環濠集落)
- 1. 木曾良 2. 深作東部 3. 馬場北 4. 中里前原
- 5. 南通 6. 午王山 7. 四郎B地区 8. 五反田
- 9. 赤羽台 10. 根ノ上 11. 弥生町 12. 丸段上
- 13. 下戸塚 14. 落合 15. 新井三丁目
- 16. 池田山北 17. 鉢山町 18. 丹栗院 19. 清美台
- 20. 山王 21. 山王三丁目 22. 久ヶ原 23. 鎌ヶ谷
- 24. 下山 25. 堂ヶ谷戸 26. 影向寺 27. 末長
- 28. 大原 29. 四枚畑 30. 鹿ヶ谷 31. 神ノ木台
- 32. 山王山 33. 市道2号跡No.6 34. 殿屋敷
- 35. そとごう 36. 持田 37. 鶴居上ノ台 38. 赤坂
- 39. 石名坂 40. 西園209 41. 海老名本部 42. 神崎
- 43. 宮の堂 44. 子ノ神 45. 向原 46. 王子ノ台
- 47. 根丸島 48. 草刈 49. 稲間 50. 大園 51. 鹿嶋台
- 52. 土宇 53. 美生 54. 境 55. 文蔵 56. 浦ノ口向台
- 57. マミヤク 58. 打越 59. 岩坂大台 60. 田子台
- 61. 鶴田 62. 和泉女神前



④高尾山古墳の出現と北陸北東部系土器



29



高尾山古墳（沼津市）：平成17年からの計画道路建設のための調査で、はじめて3世紀前半代とみられる全長62mの前方後方墳であることが明らかになった。保存運動と協議の結果、道路計画を一部変更して保存されることとなった。

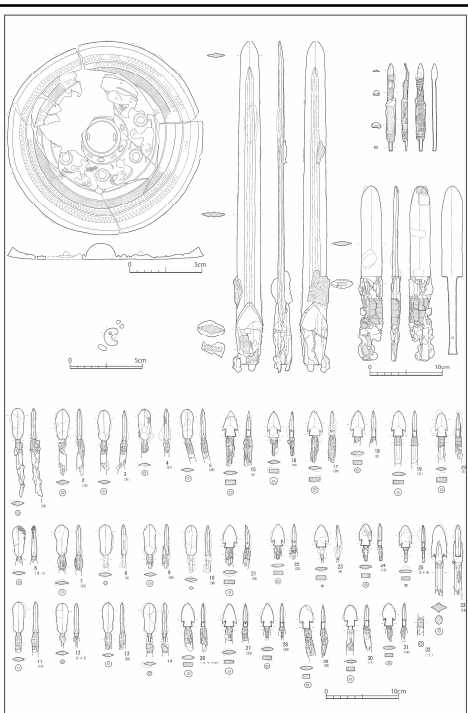
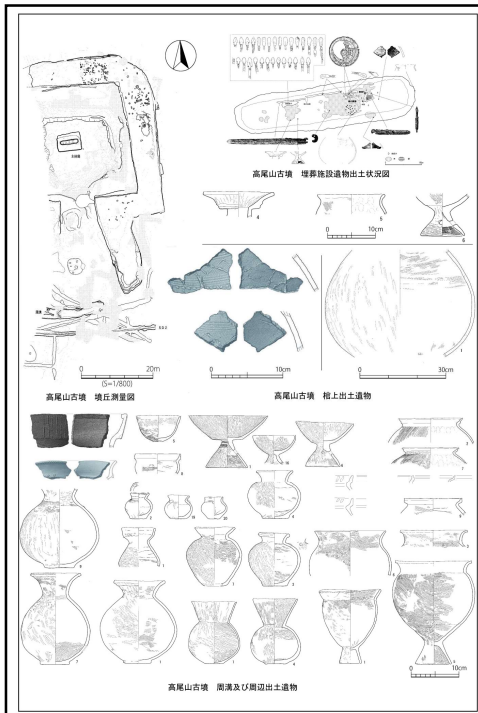
30



副冢品出土状況



高尾山古墳の外来系土器：4は脚台がついているが、胴部から上位は北陸北東部の特徴を持ったものと考えられている。³¹



静岡・清水平野の古墳時代への転換

大型建物
池状遺構

0 50m

区画溝-塙
区画溝
池状遺構
独立棟持柱付掘立柱建物

33

汐入遺跡…静岡平野南部の海岸浜堤に近い砂帯上に立地している。西側は周溝付きの平地式住居と掘立柱建物からなる居住域内が溝や柵列によって方形に区画される状況が知られていたが、その東方の地点に棟持柱付の掘立柱建物をとりまく空間と方形の区画で囲まれた居住域を有する

神明山1号墳 墳丘測量図 (S=1/800)

神明山1号墳 出土遺物 (S=1/8)

神明山1号墳前部前壁 B溝 出土遺物 (S=1/8)

第19図 神明山1号墳(左)と著墓古墳(右)の比較

神明山1号墳 (静岡市清水区)
 静大考古学研究室で墳丘の調査を行い、廻間Ⅲ式(古)併行の土器を出土する全長69m、箸墓1/4相似形とみられる撥型前方部を持つ前方後円墳であることが判明した。

34

3. 東海からみた邪馬台国時代の新潟

新潟と東海の邪馬台国時代の同じころ、環濠集落と異系統土器の共存、高位置集落、古墳時代初頭の広域移動など同時期に類似、関係するような動きが認められる。

①高地性・環濠集落—倭国乱の頃

【新潟】

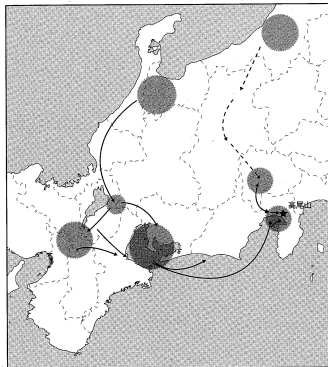
- ・古津八幡山遺跡、裏山遺跡斐太遺跡などの高地性の環濠集落が形成されるようになる（緊張状態）。
- ・北陸北東部系、東北系土器が共存、折衷土器。

【東海・関東】

- ・後期前半の集落が中頃に洪水で埋没する例（登呂）
後期後半にかけて高位置などへ移動。
- ・後期前半から遠隔地へ移動（菊川式の南関東への移動など）。
空白を埋めるように環濠集落を形成して移住。移住先で周辺土器と共存

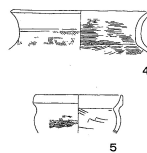
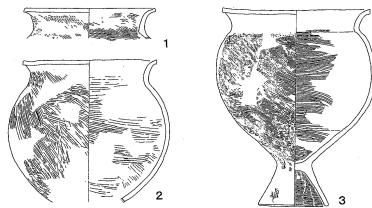
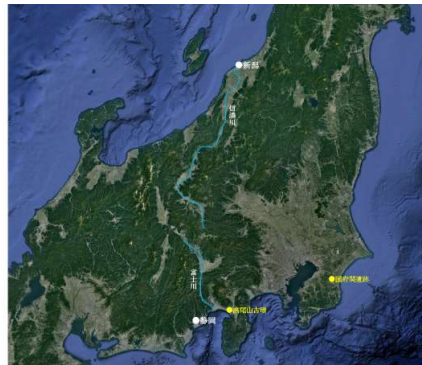
※緊張関係を保ちながらも移住（地域開発）、隣接集団と共存
⇒新しい地域社会を形成する動きでもある。

35



東海河への外来系土器流入経路模式図

(佐藤祐樹2012「高尾山古墳周辺における集落の動態と古墳築造の背景」『高尾山古墳発掘調査報告書』)

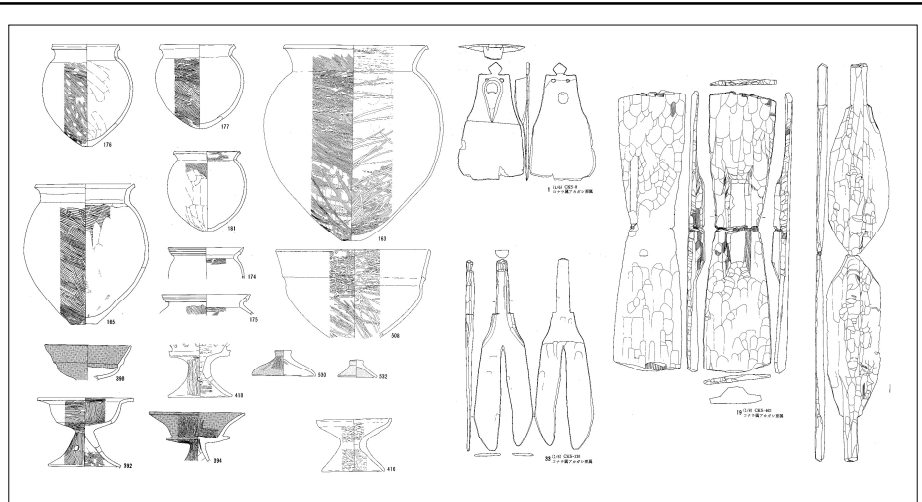


高尾山古墳発掘調査報告書掲載の北陸北東部系土器等
(滝沢規朗2013「高尾山古墳周溝及び周辺出土の北陸北東部系土器について」『西相模考古』第22号)

②新潟から来た人々

列島的な遠隔地土器の広域移動の時代。静岡で北陸北東部系土器が出土すること。折衷品が作られたこと。
⇒新潟から静岡へやってきた人々

36



千葉県茂原市国府関遺跡で出土した北陸北東部系土器と製作途上品を含む木製品類
 : 北陸系は北東部系中心で甕のほか多器種にわたる。ほかに在地系と東海系。東海系
 台付甕の脚台を意図的に折損。
 木製品（アカガシ亜属製農工具類）の生産を専門的に行った遺跡。北陸系土器を
 用いた人々は技術者集団として移住し、木器生産に携わったのではないか。
 ※土器の広域遠隔移動の背景には、鉄・装飾品などの流通とともに技術者の移動
 伴っているのではないか。 : 学生時代に国府関遺跡の調査・整理に参加して以来...

まとめ

- ◇特徴的な高地性・環濠集落が発達する邪馬台国時代の新潟を念頭に、東海・関東の同時期の集落や社会の動向を概観しながら比較を試みた。東海でも環境変動などに対応して、集落の移動や地域間の集団の移住が行われ、移動先で環濠集落が形成される状況が知られる。一方で、移動先でも隣接集団との共存は確認され、新潟の高地性環濠集落の様相とも共通するようである。環境の変化は、移動と新たな開発を促したともいえる。環濠集落などに示される緊張状態の一方で、交流と開発が進化した時代であったとも考えられるのではないか。
- ◇次に訪れる、卑弥呼の時代、列島的な遠隔地土器の広域移動の時代。中塚氏は気候の長期変動が収まったと指摘する。古墳（墳丘墓）の広域築造に政治的関係構築が見いだされる。土器の遠隔地交流の背景にはやはり人の移動もあって、むしろ政治的な背景を持つだろうが先進・基盤技術の交流も盛んにおこなわれたと推察される（そうした物流研究を参照すべきであるが）。

【参考文献】（スライド中に挙げたもののほか）

- 静岡県考古学会2014『駿河における前期古墳の再検討』
- 静岡県考古学会2015『駿河における古墳時代前期集落の再検討』
- 篠原和大2019「農耕文化の形成と登呂遺跡」『大学的静岡ガイド』昭和堂
- 新津市教育委員会2001『八幡山遺跡発掘調査報告書』
- 日本考古学協会新潟大会実行委員会1993『東日本における古墳出現家庭の再検討』

※新潟市文化財センター 相田泰臣様 立木宏明様 には過去の講演会資料等をお送りいただき参考にさせていただいたほか、大変お世話になり、心から感謝申し上げます。